

ICC Kyoto

Kyoto International Conference Center

春

Spring 2012

巻頭言「館長就任のご挨拶」
国際会館のあけぼの - 大谷幸夫 氏
企画イベント / 催事一覧
武藤順九 氏の作品紹介



巻頭言

館長就任のご挨拶

公益財団法人 国立京都国際会館 館長 木下 博夫

この度、前任者天江喜七郎氏の後任として、3月23日付で国立京都国際会館の館長に就任させていただきました。1966年に日本で初めての本格的国際会議場として設立された国立京都国際会館は、この45年間に輝かしい実績を上げるとともに、宝ヶ池周辺の緑に囲まれた庭園型会議場として国の内外で広く知られています。ここでは「京都議定書」が採択された地球温暖化防止京都会議(COP3)や第3回世界水フォーラムをはじめとする数多くの大型会議が開催され、平和、環境、医学、科学技術など人類が直面するテーマについて話し合いが行われ、関係者の御努力により実のある成果をおさめてきました。

その間の先人たちの苦労や功績を振り返りながら、今後未来に向けてこの国際会館をどのように管理・運営をしていくべきか、その方向付けが求められていますので、私も職員の先頭に立って取り組んでまいる所存でございます。同時に地元の皆様には、国立京都国際会館が親しみやすい身近な存在であることを感じ取っていただけるよう、引き続き見学会や市民参加型の自主企画イベント等を行ってまいりたいと考えています。

就任して間がありませんが、今後とも国立京都国際会館が日本や世界の人々の平和と繁栄のために些かでも寄与できますよう、奉仕の精神を大切にして活動して参りますので、より一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

公益財団法人 国立京都国際会館
館長

木下 博夫

プロフィール

昭和 18年 1月	静岡県浜松市生まれ	京大卒
昭和 42年 4月	建設省入省	
昭和 59年 4月	京都市計画局長	
昭和 62年 6月	京都市助役	
平成 8年 7月	建設省都市局長	
平成 12年 6月	国土事務次官	
平成 16年 7月	阪神高速道路公団理事長	
平成 17年 10月	阪神高速道路株式会社	代表取締役社長

理事・監事名一覧				国立京都国際会館は、多くの方々のご協力で運営されています。			
理事長	稲盛 和夫	京セラ株式会社名誉会長	理事	堀木 エリ子	株式会社堀木エリ子&アソシエイツ代表者		
副理事長	村田 純一	京都文化交流コンベンションビューロー理事長	理事	堀場 厚	堀場製作所代表取締役会長兼社長		
常任理事	木下 博夫	国立京都国際会館館長	理事	松下 正幸	パナソニック株式会社代表取締役副会長		
理事	石田 隆一	株式会社イシダ取締役会長	理事	松本 鉦	京都大学総長		
理事	井上 正幸	財団法人日本国際教育支援協会理事長	理事	山岡 義生	日本バプテスト連盟医療団理事長		
理事	上村 多恵子	京南倉庫株式会社代表取締役社長	理事	山田 啓二	京都府知事		
理事	門川 大作	京都市長	監事	大宮 正	弁護士（西村あさひ法律事務所所属）		
理事	立石 義雄	京都商工会議所会頭	監事	西田 憲司	公認会計士（西田公認会計士事務所所長）		
理事	谷野 作太郎	財団法人日中友好会館副会長					

評議員名一覧				国立京都国際会館は、多くの方々のご協力で運営されています。			
評議員	明石 康	元国連事務次長、財団法人国際文化会館理事長	評議員	齋藤 修	株式会社京都新聞社相談役		
評議員	阿南・ガ'ァ'ジニア・史代	テンブル大学日本講師	評議員	斉藤 行巨	関西経済同友会常任幹事・事務局長		
評議員	池坊 由紀	華道家元池坊次期家元	評議員	坂本 吉弘	三菱重工業取締役		
評議員	井村 裕夫	財団法人先端医療振興財団理事長	評議員	千 宗員	表千家若宗匠、財団法人不審庵副理事長		
評議員	内海 善雄	株式会社トヨタIT開発センター最高顧問	評議員	千 容子	社団法人茶道裏千家淡交会副理事長		
評議員	大倉 治彦	月桂冠株式会社代表取締役社長	評議員	手嶋 龍一	外交ジャーナリスト、慶應義塾大学教授		
評議員	評議員 太田 昇	京都府副知事	評議員	寺島 実郎	財団法人日本総合研究所理事長、多摩大学学長		
評議員	小倉 和夫	前独立行政法人国際交流基金理事長	評議員	中尾 一和	京都大学大学院医学研究科教授		
評議員	柏原 康夫	株式会社京都銀行代表取締役会長	評議員	服部 重彦	株式会社島津製作所取締役会長		
評議員	茅 陽一	地球環境産業技術研究機構理事長	評議員	星川 茂一	京都市副市長		
評議員	グレン・S・フクシマ	エアバス・ジャパン株式会社取締役会長	評議員	松山 良一	独立行政法人国際観光振興機構前理事長		
評議員	小村 武	元大蔵次官	評議員	吉村 彰彦	財団法人日本不動産研究所常勤顧問		

京都国際会館企画イベント

新館長就任披露の集い

2012年4月27日

ゴールデンウィーク直前の4月27日(金)、京都国際会館の新館長就任披露の集いが開催されました。門川大作京都市長、山田啓二京都府知事はじめ、稲盛和夫国際会館理事長、天江喜七郎前館長など、230名を超える来賓・招待者が集い、庭園に咲き誇るサトザクラが、新館長の門出を祝しているかのような晴れやかな就任披露のパーティーとなりました。



理事長 稲盛和夫



館長 木下博夫



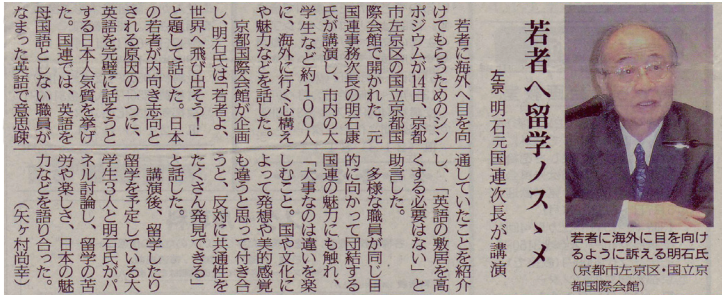
宴会場さくらでの披露パーティー

2012年国際会館自主企画シンポジウム「若者よ、世界に飛び出そう！」第1回

元国連事務次長 明石 康 氏 講演会

2012年4月14日

最近の日本の若者は内向き志向になり、海外へ留学を志す学生数が年々著しく低下してきています。10数年前の半数以下とも言われています。そのような現状を憂い、当館では元国連事務次長 明石康氏を講師に迎え、自主企画シンポジウム第1回「若者よ、世界へ飛び出そう！」を、開催しました。100人を超える参加者は、白熱した討論に酔いしれた160分でした。詳細は次号(夏号)に掲載します。



2012.4.15 京都新聞 朝刊

2012年国際会館自主企画シンポジウム「若者よ、世界に飛び出そう！」第2回

デザイナー・プロデューサー 山本寛斎 氏 講演会

2012年5月26日



デザイナー・プロデューサー **山本寛斎 氏**
2012年5月26日(土) 14:00～15:30

(場所) 国立京都国際会館 RoomD
(内容) 講演会＋質疑

国立京都国際会館では今年の自主企画の一つとして、世界で活躍しておられる方々を講師に迎え、「若者よ、世界へ飛び出そう！」と題して、シンポジウムを企画しています。第2回目には、デザイナー・プロデューサーの山本寛斎氏を講師に迎えます。募集人数は200～300名、入場無料です。夢を実現するために、一人でも多くの若者のご参加をお待ちしております。お申し込みは当館ホームページをご覧ください。

Interview 国際会館のあけぼの ～ 国際会館にかけた半世紀 ～

株式会社大谷研究室 代表

建築家 大谷 幸夫 氏 インタビュー （聞き手：天江喜七郎 氏）

〔大谷幸夫氏略歴〕

1924年東京生まれ。1946年東京大学第一工学部建築学科卒業。
1960年まで丹下健三氏の下で研修。設計連合を経て1967年に大谷研究室設立。
東京大学工学部都市工学科教授、千葉大学工学部教授を歴任。東京大学名誉教授。



天江 / 4年後に国際会館は50周年を迎えます。先生にインタビューをお願いして、きっちと記録に取っておこうという企画でございます。

大谷 / 有り難いことです。

天江 / 公開設計競技方式（コンペ方式）でございますね。

大谷 / それまで日本で実施されたコンペと比較して、審査の透明性や設計者の著作権といった面で画期的でした。

天江 / 195の応募作品の中から、大谷幸夫先生の作品が最優秀作品に選定されたのでございましたね。

大谷 / そういう審査を受けました。

天江 / 先生の建築を通じての哲学とは、どういう点に要約されるのでございますか。

大谷 / 僕が建築を考えるときの原風景として戦後の焼け跡の体験があります。焼け野原に少しずつ人が戻ってきて生活を始めることで町が活気を取り戻してゆくことを実感致しました。その体験から都市を支える基盤として一人一人の人間の生活があることを学び、人間の生活の拠点としての建築のあり方を考えようと思いました。

天江 / 日本的な感じを出さないといけないというお気持ちと、外国から来られるからニューヨークやジュネーブにある会議場とどうバランスを取るのか、或いはそういうお考えは全く無くて作られたのか、その点はどうなのでございますか。

大谷 / コンペの際には、日本に欧米の近代建築様式を実現することや外国に対して日本の文化的な伝統を表明するという二つの課題を意識していました。その一方で、戦後の日本で日本固有の文化を強調すること

へのためらいもありました。しかしながら設計の過程で建築と周囲の自然との応答のあり方を考えてゆくなかで、民族性や歴史性といったものが自ずと表現されることを理解しました。外国からの訪問客を日本の自然が迎え入れるということ、その中に芽生え花咲いた日本文化、芸術を京都市で楽しむという観光の筋書きがありました。

天江 / 比叡山や周りの緑とか宝ヶ池、それがまさに日本的であると。

大谷 / 比叡山一帯の山並みがあって、その中に穏やかな土饅頭のような山ふところに抱かれた宝ヶ池があって、そこに国際会館がまた新たに加わって訪問客を迎えるという。自然と対話して少しばかりは遠慮しないといけないと考えました。敷地の周辺にはスケールの小さな山並がありそれが比叡山に繋がっています。それで、べたっと壁面で、池の背景にある山並みを消してしまうのではないかと心配だったのです。ところが、宝ヶ池の取っ付きのところに立つと背景の山がちゃんと見える。設計中もそれをチェックしてやったのです。

天江 / 大きな建造物でありながら、自然の中に包まれたという感じを受けますね。

大谷 / 京都は山並みを自然の背景として尊重していて、その中で人間の営みや可憐な芸術を開花させました。国際会館の規模から考えるとこの山並みの間が建築により塞がって、べたっと暑苦しくなる恐れがあったので、南面的一端に緑のポイントを意識的に置きました。池は宝ヶ池と地中でつながっていて、何と云うか、呼吸しているものですよね。その中の一角に樹木の砦をつくりました。



天江 / 中の設計に関しまして、非常にロビーが広く取っておりますね。

大谷 / 戦前、中学高校の時に銀座に住む友人がいて、日比谷公園から銀座を散歩して、時々帝国ホテルのロビーで休むのです。それでロビーというものの感じの良さといいますが、豊かさといえますか。建築を志して、僕等が尊敬する前川國男という建築家にお会いして、前川先生はロビーが好きなのです。建築会館に来いよと僕らにちょっと声を掛けてロビーで雑談をしたのです。

天江 / 大会議場のデザインにはひとつ特徴がございますね。ステージと客席の間にある階段です。この階段によってステージと客席を行き来することが可能なため、情報を発信する側と受ける側が一体化できる構造となっておりますね。

大谷 / 会議場としての一体性が要求されたことと、日本の風景の地形的特徴との親近性があったからです。日本では山は穏やかな山ですけど、山裾が繋がっている訳です。段々に耕して、このレベルの田んぼに行くと水があって月が映って、その上の田んぼへ行くと次の水にも月が映って、田毎の月、繋がっている訳ですね。元々一体的なのです。

天江 / 一番最初に作られましたM棟、アネックスホール、川からこちらと、イベントホールの建物は同じコンセプトで、或いは少し違ったお考えでございますか。

大谷 / 少し違ってると受取っています。本館側の敷地は山並みの地域です。ところが、川から向こうは平野が広い市街地です。元々この逆台形や台形という形になったのは、自然との対話の結果です。四角い建物ではボリュームが大きくて視覚的に周りの山並みを少し圧迫してしまう。ところが座席数は会議の性質上決まっておりますから会議場の面積は減らせません。そこで会議場の壁を少し内側に倒して会議場の立体としてのボリュームを減らしました。

天江 / 1998年に建設省設立50周年記念事業「公共建築百選」に選定され、2003年に日本建築学会から「日本モダン・ムーブメント100選」に選定されました。5,000名収容可能な多目的ホールを作りたいと、政府をお願いして10数年になるのですが、やっと政府も作らないといけないねという認識になっている。ところが、お金がないので競争入札で一番安いところという感じでございますね。価格が入札の重要な部分を占めるというのは分かるのですが、建築の評価基準で一番重要なのが価格ということになりますと、それで人々に感動をあたえるような建築ができるのかと直感的に思うのです。昔から建築というものは絵画や彫刻など芸術家の協力を得て、壮麗な空間をつくっ

ていくのですが、初めて国立の国際会議場は全工事費の1%前後を美術家との協同の経費に充てることが条件に明記されておりましたね。

大谷 / これはもうちょっと定着させたかった。外国ではその風習があるわけです。宮殿やなんか絵や彫刻で。寺院もそうです。もう少し美術と建築が一体になって、広い生活の空間を作っていく。折角、国が美術に1、2パーセント確保することを了承したわけですから。私の弟が彫刻をやっていたものですから、頼んで、若い人達集めてグループでやってもらいました。

天江 / 多くの建築をなさった中で、国際会館が一番思い出があると、力を入れられた。

大谷 / そうなりますね。設計終わって、施工に入る段階からもう40何年経ってもまだ縁が切れないというのは、私が完璧でないものだからまだ宿題が一杯残っている。

天江 / 政府からこの建物の管理運営を京都市を通してきちんと委託させてもらいまして「これは大変な宝である」、外国から来られる方が「これは素晴らしいね」と強い心持で帰っていただきたいという気持ちで私共は管理しているのです。45年間経ってまだこんなに綺麗なのと驚かれます。

大谷 / 皆さん本当に手を入れて下さるので、愛情込めて接して下さい。

天江 / こういう素晴らしい環境で働けるということに私共職員は感謝しないといけない。先生のご本を読んですと、建築というものは話かけるものだと思っております。

大谷 / 聞こえるような気がする。生きている訳です。建物に人がいるというのは当然なのです。建物と人が話しかけている。そういうものなのです。

天江 / 3年強館長をさせていただいて、大きな会議が入ってウワーと人が一杯いる時は、この建物が凄く喜んでる感じを受けるのです。

大谷 / それは有難いですね。

天江 / 逆に、1週間も仕事が入らなくて、何時行っても人っ子1人いないと、寂しい寂しいと泣いているよもっと仕事を引っ張ってくるようにしなきゃいかんと皆に言っているのです。

どうも長い時間有難うございました。国際会館のことどうぞ宜しくお願いします。

大谷 / こちらこそ、40年以上も国際会館のことを継続して考える機会を下さって有難うございます。【了】



地縄打合せ（右から2人目が大谷先生）



現場視察台（寝子ヶ山山頂に）

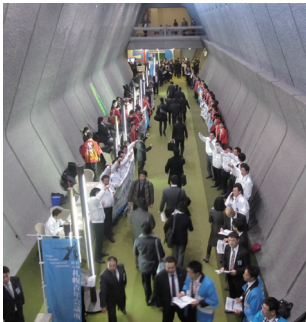


工事着工前

開催されたイベント

公益社団法人日本青年会議所2012年度京都会議

2012年1月20日－22日



『呼び覚ませ日本のプリンシプル！新たな奇跡を起こすために「凛然とした誇りある国」日本の創造！』の開催テーマのもと、(公社)日本青年会議所の年初を飾る2012年度京都会議が国際会館で開催されました。(公社)日本青年会議所京都会議の歴史は今から46年前、1966年11月にさかのぼります。この年、国際青年会議所の世界大会(JCI世界会議)が国立京都国際会館で開催され、JCI世界会議は同年5月にオープンした国立京都国際会館のこけら落としの国際会議となりました。また、その翌年の1967年1月に京都会議が開催され、今年で実に46回目を数えます。井川直樹会頭のもと、1月22日までの3日間、会期を通して早朝から多数の出席者が集い、各種委員会、協議会、セミナーが開催され、JC活動についての活発な交流と議論が繰り広げられました。

第50回 関西財界セミナー

2012年2月9日－10日



2月9日(木)～10日(金)の2日間に渡り「第50回関西財界セミナー」が開催されました。1963年に第1回関西財界セミナーが誕生してから半世紀の節目を迎える今回のセミナー参加者は、過去最高となる615名でした。
『挑戦 日本再興 ～革新と絆でつくる経済社会～』のセミナー・メインテーマのもと、6つの分科会、「新"日本力"の創造」、「繁栄の多極化 ～一極集中是正と地方分権～」、「責任ある政治、国益を守る外交、安全保障」、「関西の成長戦略」、「グローバリズムの深化と企業経営」、「人材の多様性が支える経済の発展」で活発な意見交換が行われました。

IEEE ICASSP2012

2012年3月25日－30日



3月25日から30日までの6日間、IEEE Signal Processing SocietyによるICASSP2012が開催されました。Signal Processing Societyは、音響、動画・画像、音声や通信、ソナー、レーダー、音楽などのあらゆる信号を扱う分野にまたがって活動を展開しています。中でもICASSP (International Conference on Acoustics, Speech and Signal Processing) は同組織が毎年主催する、世界で最も大きな音響音声信号処理に関する国際会議です。今回の日本での開催は1986年の東京開催について26年振り、2度目の開催となりました。期間中、世界各地より2,000名以上の参加者を集め、活発な意見交換が行われました。次回2013年はカナダのバンクーバーでの開催が予定されています。

開催予定イベント

第85回 日本整形外科学会学術総会

2012年5月17日－20日

第85回日本整形外科学会学術総会が来る5月17日～20日、当館とグランドプリンスホテル京都を会場として開催されます。今回は京都府立医科大学大学院運動器機能再生外科学教授、久保俊一先生を学会長として、「伝統と創意-未来に向けた整形外科の飛躍-」をメインテーマに、約10,000名の参加を予定しています。超高齢化社会を迎える我が国において、高齢者における運動器の健康を考えることは喫緊の課題となっています。今回の学会では、社会全体が健全に機能していくことを目指し、運動器診療の未来について議論が交わされる予定です。

国際大ダム会議第80回年次例会及び第24回大会

2012年6月4日－8日

国際大ダム会議(ICOLD)は1928年に創建された国際団体であり、ダムの構造基準、管理基準等の技術面において世界の指導的な役割を果たしています。現在95カ国が加盟しており、日本は1931年から参加している最も古い加盟国の1つです。「水の世紀」と呼ばれる21世紀、水に関する問題の重要性は増す一方であり、また地球温暖化対策の観点からは、ダムの建設・管理の重要性が再認識されています。今回は1984年の東京開催以来28年振りに日本で行われます年次例会となりますが、さらに日本では初めて開催いたします3年に1度の大会が合わせて開催されます。我国が国際社会に貢献出来る貴重な機会となります。

Event Calendar 2012年4月－7月 開催予定会合一覧

2012年4月30日現在
※参加者100名以上の会議（参加者数は概数）

会期	催事	参加者数
3月31日－4月1日	国際ロータリー第2650地区2011～2012年度地区大会	2,800人
4月2日	京都精華大学2012年度入学式	1,950人
4月14日	自主企画シンポジウム「若者よ、世界へ飛び出そう！」第1回 明石康氏講演会	300人
4月15日－18日	第13回世界精密鑄造会議	300人
4月15日	第29回一般社団法人日本臨床内科医会総会	1,000人
4月20日	JLAA 第十回記念総会	100人
4月21日－22日	第11回バイ・デジタルオーリングテスト国際シンポジウム	120人
4月21日	ライオンズクラブ国際協会335-C地区第58回年次大会	2,000人
4月21日－22日	一般社団法人 日本ヘリカルサイエンス学会	100人
4月22日	にんげんクラブ京都大会、坂本龍馬財団設立記念大会、光・水・風フォーラム	1,000人
4月24日	国際ソロプチミストアメリカ日本中央リジョン 第26回リジョン大会及び2011年度分科会	2,500人
4月27日－29日	アート京都 2012	5,000人
4月30日	第53回（平成24年春）宝松庵茶会	600人
5月12日	第2回救急放射線セミナープレミアム	500人
5月17日－20日	第85回日本整形外科学会学術総会	10,000人
5月22日	パナソニック松愛会京都支部年次支部総会	150人
5月24日－25日	第36回日本口蓋裂学会総会・学術集会	500人
5月26日	自主企画シンポジウム「若者よ、世界へ飛び出そう！」第2回 山本寛斎氏講演会	300人
5月28日－30日	2012 Ogilvy & Mather AP Regional Meeting	320人
6月1日－3日	第111回日本皮膚科学会総会	4,300人
6月4日－8日	国際大ダム会議第80回年次例会及び第24回大会	1,200人
6月10日	関西学院同窓会京都支部総会	100人
6月15日、17日	第39回医療研究全国集会in京都	1,000人
6月20日－22日	第22回関西高校模擬国連大会	230人
6月23日	平成24年度社団法人京都府看護協会通常総会	800人
6月29日－7月1日	第63回日本東洋医学会学術総会	2,500人
7月5日－7日	第48回日本小児循環器学会総会・学術集会	1,500人
7月8日	エキスパートナース・フォーラム2012	400人
7月8日	第11回 地球研フォーラム	280人
7月14日－15日	第18回日本看護診断学会学術大会	2,500人
7月29日－8月2日	第15回国際分子植物微生物相互作用学会	1,000人



周辺散歩



COP3京都議定書15周年プロジェクト
『光・水・風』～3.11 復興への祈り～ KYOTO 2012

武藤順九の宇宙

～風の環 2012 in 国立京都国際会館, KYOTO～

春から初夏へ、風光明媚な庭園に、彫刻家・武藤順九氏の大理石彫刻「風の環」シリーズをはじめとする21点の作品を展示しています。武藤氏は、ローマ近郊のアトリエ、トスカーナ州ピエトラサンタ、そして近年は京都にも拠点をおき、創作と発表を通じ「いのちの尊さ」を訴え続けてきました。近い将来ニューヨークに9.11慰霊モニュメントとして設置予定の1/1モデル、そして、東日本大震災3.11慰霊モニュメントとして被災地への設置が計画されている1/4および1/3ファーストイメージモデルも特別展示しています。（5月13日 日曜日まで）

編集後記

木下博夫新館長が3月末着任しました。国際会館の新しいページが開かれようとしています。国際会館50周年記念インタビューで、「自然と対話して少しばかりは遠慮しないといけない」と建設当初を振り返って語る建築家大谷幸夫氏。研ぎ澄まされた感性をご堪能下さい。春号が出来上がりました。ご一読下さい。（広報・企画室）

編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館
〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
電話 075-705-1234 (FAX: 075-705-2367)
E-mail com@icckyo.or.jp
URL http://www.icckyo.or.jp/
発行日 2012年4月30日